

石巻地域の人材育成・活性化への新たな取り組み

舛井 道晴 ● 石巻専修大学経営学部准教授
高橋 智 ● 石巻専修大学理工学部准教授

はじめに

石巻専修大学は、1989年4月、理工学部と経営学部の2学部体制で宮城県石巻市に開学した。2学部とも1994年4月に大学院修士課程を設置し、その後大学院後期課程を増設した。さらに、2013年4月には人間学部を開設し、現在は3学部2研究科体制のもと地域に根ざした大学づくりに取り組んでいる。

本学は、地域で唯一の高等教育機関としての強みを生かし、地域を支えていく人材の育成と地域の活性化を目指した「高大産連携プロジェクト」を2016年度から展開している。「高大産連携プロジェクト」は、石巻圏域の高校、大学、企業などとの連携によるプラットフォームを形成し、3者による協力のもと、圏域の資源に対する

理解を深めながら、各々の強みや特色を最大限に引き出す取り組みである。大学の特色だけでなく、地域の特色につながる事業への発展も目指している。

本稿では、2016年度からスタートした3つの取り組みについて、詳細の背景などを含めて紹介する。

1 「Code for Ishinomaki 2016」

本プロジェクトは、地域の活性化をテーマにアプリケーションの開発を目的とした活動である。2016年度は、経営学部舛井ゼミナールの学生と石巻工業高校（電気情報科）の生徒が中心となり、一般社団法人イトナブ石巻の技術的なサポートを受けながら活動を行った。

本プロジェクトでは、はじめに「若者たちがITの力で石巻を盛り上げるにはどうすればよいか」という大ま

かなテーマのみを設定した。これは、自分たちが過ごしている石巻を知ることから始めてほしいという願いがあったためである。また、それまで交わることのなかった高校生と大学生の感性を最大限に引き出すために、どのように進めていくかをわれわれが見定める狙いもあった。結果として、この方向性は成功し、当初抱いていた進捗に関する不安は杞憂となった。はじめはお互いの距離感を感じていたようだが、ひとつの課題に向かって協力して活動を進めていくうちに、自然に連携できるようになった（写真1）。早い段階で、コミュニケーションや進捗に関するわれわれのアドバイスは不要となった。

議論を重ねて、本年度は「石巻の絶景」をテーマとして、石巻圏域の風光明媚な景色を紹介するスマートフォンアプリケーションとウェブサイトを制作した。アプリケーションでは、景色をヴァーチャルリアリ



写真1 ディスカッションの様子

ティ（VR）で疑似体験ができるようにし、ウェブサイトではタイムラプス機能によって石巻の四季を1分程度で楽しめるよう工夫した。特にVRは近年さまざまなメディアに取り上げられたり、学生たちになじみのあるゲーム機で用いられるようになったりと、注目を浴びている技術である。新しい技術を学び、応用できたことは今回の成果のひとつである。

本プロジェクトを通じて、若者たちが自らの足で地域の情報をつかみ、それを自らの手で新しい技術の中に落とし込むことができることを再確認した。これからも高大産連携プロジェクトを推進することによって、さまざまな課題を抱える石巻圏域から産業を支える人材を輩出することが可能になるであろう。

2 「高大産連携によるラジオ放送」

石巻専修大学は、2012年7月にエリアワンセグ放送を行う地上一般放送局の免許を取得し、同年8月に学内エリアワンセグ放送局「いしのまきワンセグ」を開局した。エリアワンセグ放送とは、微弱な電波出力による放送で、携帯電話やカーナビなどで視聴できるワンセグ放送のことである。通常のワンセグ放送と違い、「エリ

ア」の名の通り、限られた範囲の中でのみ受信できる。その制約を補うために、同年10月から経営学部舛井ゼミナールの学生と石巻地域を可聴範囲とするラジオ石巻が共同で番組制作を始め、現在に至るまで続けている。

本プロジェクトは、その環境を土台として石巻地域の高校で唯一、放送部を持つ石巻西高校の生徒を新たなメンバーに加えて番組制作を行い、若い感性で地域への情報発信に取り組んでいる（写真2）。ラジオ番組の制作が活動のメインであるが、ご当地CMやインターネットへの配信動画などのコンテンツ制作に関することを学び、実践的な活動を行っている点が本プロジェクトの特徴である。

大学生、高校生ともにゼミナールと部活動を通じて学んでいることもあり、数回の打ち合わせを経るだけで、実際に番組制作を行うことができるなど、本プロジェクト



写真2 番組収録の様子

トは極めて円滑に進んでいる。若者たちが自らの住む地域のことを調べ、時には地域住民に取材して得た情報を若者らしい視点で発信することは、地域にとって明るさと元気をもたらす方法のひとつとなるであろう。

3 「石巻地域3者連携ものづくり」

本プロジェクトは、ものづくりの実践的な機会を通して、若い世代の育成と地域の活性化を目指す活動を行っている。

2016年度は、趣旨に賛同いただいた今野梱包株式会社との協力のもと、理工学部と経営学部の学生および石巻工業高校（土木システム科）の生徒が中心となつて、強化ダンボールを活用した防災用品の開発に取り組んだ。プロジェクトの大まかな流れは「構想・企画」「設計・解析」「試作・評価」で構成されており、実際のものづくりを体験しながら、学生の能動的な学びを促す内容となっている。大人はファシリテーターとして、若者の自由な発想を生かせる環境づくりを意識した。

具体的な活動内容は、ブレインストーミングによるアイデア出し、若者を対象としたアンケート調査、発表会などのメンバー全体による活動や、コンピューター支援



写真4 強化ダンボール製の試作品



写真3 大学生と高校生によるアイデア出し

による設計、ダンボールの強度試験、製品の広報戦略など、専門性を必要とするものまで多岐にわたっている（写真3）。

プロジェクトには、異なる専門分野を学ぶ

学生が参加しており、ものづくりを背景とし

た知識を広めるととも

に、自らの専門知識を

活用する場を提供する

ことができた。また、

高校生の参加は、より

柔軟な発想を取り入れ

ることや大学生の主体

性の向上につながった。

さらに、企業の災害

対策や地域活性化の

取り組みに関する講演

会の実施によって、地元の産業や文化に関する理解を深めることもできた。

試作品としては、強化ダンボール製の台車やパーテーション、折り畳みイス、スリッパなどが完成し、現在もこれらの改良に取り組んでいる（写真4）。

完成した試作品に触れながら、ものづくりの楽しさや難しさを語る学生を目にして、地域資源と人材を生かす教育プログラムとしての大きな意義を感じている。

おわりに

石巻圏域は、2011年3月11日の東日本大震災で最大の被災地となった。現在も震災の復興が進む中、人口の急減、地域産業の衰退、安定した雇用の創出など、震災後のまちづくり、人づくりが大きな課題となっている。

本稿で紹介した3つの取り組みは、いずれも初年度にもかかわらず特徴的な成果を挙げており、高大産連携プロジェクトの推進によって、地域の課題解決を担う人材の育成が可能になると十分に考えられる。本年度の反省を踏まえ、次年度以降はさらに力強くプロジェクトを推進し、地域の活性化に貢献したいと考えている。

日本学生支援機構の寄附金事業について

独立行政法人 日本学生支援機構 政策企画部 広報課

はじめに

独立行政法人日本学生支援機構（以下、機構）は、国のさまざまな学生支援事業を総合的に展開する中核機関として、奨学金事業、留学生支援事業および学生生活支援事業に取り組んでいる。機構では、元奨学生や篤志家の方々、法人の皆様から寄せられた寄附金を基に、平成28年度には学生支援寄附金事業として「JASSO支援金事業」と「優秀学生顕彰事業」、海外留学支援事業として「官民協働海外留学支援制度」トビタテ！ 留学JAPAN日本代表プログラム」を実施した。

1 JASSO支援金事業

自然災害などにより居住する住宅が全壊または半壊の被害を受けたために、学生生活の継続に支障をきたした

学生または生徒が、一日でも早く通常の生活に復帰し学業を継続するための支援として、一人当たり10万円を支給する事業である。平成28年度は、熊本地震により被災された方々を中心に、約2000人に総額約2億円の支援を行った。

2 優秀学生顕彰事業

経済的理由により修学に困難がある中で、優れた業績を挙げた学生・生

図表1 JASSO 支援金支給実績

年 度	支 給 件 数		支 給 額
平成28年度 (熊本地震等)	1,953件	日本人学生 1,940件 外国人留学生 13件	195,300,000円

熊本地震の被災学生から届いた感謝の声

「今回の地震で、母親は職を失いました。家も大規模半壊という判定を受け、学業継続が困難と思いました。しかし、JASSO 支援金を頂いたことで、元通り学業に日々励むことができます。本当にありがとうございます。」
「善意を寄せて下さった方々のお陰で、少しずつ生活の再建に向けて動くことができている。時間はかかると思いますが、必ず大学を卒業し、目標達成したいと思います。いつかご恩返しできるように、努力していきます。」

図表2 平成28年度優秀学生顕彰表彰者数など

分野	応募者数	大賞	優秀賞	奨励賞
学術	12	2	3	3
文化・芸術	22	2	5	6
スポーツ	37	5	5	12
社会貢献	11	2	0	3
産業イノベーション・ベンチャー	2	1	0	1
国際交流	8	0	2	2
計	92	12	15	27



平成28年度優秀学生顕彰表彰式

徒に對して、これを奨励・支援し、21世紀を担う前途有望な人材の育成に資することを目的とする事業である。応募分野は学術、文化・芸術、スポーツ、社会貢献、産業イノベーション・ベンチャー、国際交流の6分野であり、受賞者には奨励金として大賞50万円、優秀賞30万円、奨励賞10万円を授与した。本年度の優秀学生顕彰の応募開始は平成29年6月中旬を予定しているので、一人でも多くの方からの応募をお待ちしている。

3 官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学JAPAN」日本代表プログラム

機構では、意欲と能力のある若者に留学機会を提供できるよう、企業、国、大学、学生などと協力し、支援している。具体的には、学生・生徒に対する、諸外国への留学のための奨学金などの支給や、事前・事後研修の実施、留学後の継続的な学習や交流の場としての留学生のネットワークの提供を行っている。

おわりに

前記の事業に加えて、平成29年度に創設された給付型奨学金制度にも皆様からお寄せいただいた寄附金を活用させていただくこととしている。こうした学生支援を行うために、個人、法人の皆様には引き続き温かいご支援をお願い申し上げる。なお、機構にご寄附いただく場合、個人・法人とも税制上の優遇措置が認められている。

http://www.jasso.go.jp/about/kihukin/shien_kihu.html

図表3 申請者数と採用者数

平成28年度後期(第5期) 派遣留学生		平成29年度前期(第6期) 派遣留学生	
申請者数	採用者数	申請者数	採用者数
1,805	513	1,336	507